

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2017/8/12 ～2017/8/31)

1. 勉学の状況

8月12日にフィンランドのユバスキュラに到着し、新生活がスタートしました。14日から約2週間大学が開校している Intensive Summer Course in Academic English という短期集中の夏期講習に参加し、平日に毎日4時間程度英語を勉強しました。この夏期講習には30人の生徒が参加し、2つのクラスに分かれたのですが、そのクラス編成を見てびっくり。私のクラスには日本人7人、もう一つのクラスには韓国人10人という偏った構成になっていたのです。英語を勉強するクラスでこの構成はどうかという多少の疑問は感じましたが、10日間、アジア・ヨーロッパ・南アメリカという異なる国から来たクラスメートと共に英語にスキルアップに励みました。授業は主にディスカッション中心で、トピックについて周りの人と意見を交換することを毎日求められました。最初は2,3人の少人数で話し合い、そのあとにクラス全体でどんな意見がでたかを好きなように言うというのが授業の流れです。クラス全体で意見を出していく過程では、日本人以外の生徒は積極的に手を挙げて発表し、分からないことがあればすぐに聞き返していて最初は驚きました。日本の授業では先生が名指ししない限り誰も発言しようとはしませんが、ここでは英語の能力や答えの正誤に関係なく自分の意見を述べるのが当たり前なのです。ただ黙って座っているだけでは何も始まらないということを知り、私も最後の方にだんだん発言するようになっていきました。この夏の授業を通して自分の英語力が格段に上がったとは言えませんが、フィンランド式の授業に慣れ、今までの授業に対する態度が変わったという点でとても有意義なものであったと思っています。

2. 生活の状況

8月12日の夜にヘルシンキ空港から電車で約3時間かけてユバスキュラに到着しました。森と湖の国と言われている通り町の中心部以外は緑と青の美しい自然に囲まれており、千葉とは全く違う生活を体験できます。初日は殺風景な部屋に空っぽの冷蔵庫、友達もいないうえに部屋にwi-fiがなかったため誰とも連絡が取れないというすべてがゼロの状態から私のフィンランド生活はスタートしました。慣れない環境に加え初めての一人暮らしということで初めは戸惑いと落胆の連続でした。最初の10日間程は部屋でwi-fiが使えなかったためfree wi-fiのあるスーパーに2時間滞在したり、友達の部屋の近くまで行ってwi-fiを借りたりして何とか過ごしていました。授業が始まってからは友達ができうれしさやつらさを共感したり、分からないことを聞くことができるようになったため、心の余裕が生まれてきました。今は週末にピクニックやパーティーに参加したりフィンランドの違う都市に行ってみたりと楽しい毎日を過ごしています。やはり持つべきものは友達だなと感じました。フィンランドは母語がフィンランド語ですが国民の多く

は英語が堪能なため不自由しないと聞いていましたが、スーパーに行けば表記は全部フィンランド語で、バスの案内などもフィンランド語で書かれているため、やはりフィンランド語の必要性を感じます。9月からは本格的に学校が始まるので、勉強と遊びをバランスよく保ち充実した毎日を送っていきたいと思います！

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2017/9/1 ～2017/9/30)

1. 勉学の状況

9月に入って本格的に学校が始まりました！

私は、9月は Finnish1 というフィンランド語のコースと introduction to intercultural communication という専門である異文化コミュニケーションのコースを受講しています。それぞれ授業内容・形式が全く異なるため別々に書いていきたいと思います。

【Finnish1】

このクラスではフィンランド語のリスニング、スピーキング、文法、またフィンランドの文化も学びます。9月の初めから12月上旬まで週3日で授業があり、課題も毎日出るため少し大変です。20人ほどの留学生が同じクラスをとっており、みんなフィンランド語を学ぶのは初めての人ばかりですが、意欲が高くてどんどん吸収していくのでとても焦ります。

フィンランド語は日本語とも英語とも似ていないため発音や文法が難しく、活用も20種類ほどあるので覚えるのがとても大変です。しかし授業は自由でゲーム感覚のため、90分の授業も全く苦痛ではありません。日本の授業とは全く異なり新たな発見があって面白いです。例えば、日本では授業で問題の解き方を習ってから復讐として実践問題を宿題で出されますが、フィンランドではその逆です。全く習っていないことを宿題に出してそれを自分なりに解き、次の授業中にペアで考えてからやっと先生が説明する、というのがフィンランド式の授業の流れです。ペアワークの時間も日本と異なり、毎回たっぶり15分ほど与えられます。その時間、生徒は自由に話し合い、先生は教室を歩き回って分からないことがあったら個人的に教えています。時間をかけてでも自分達で考えさせ、協力して答えを見つけることに重点を置いているように感じられます。日本の教育に慣れていた私は、初めはあまりに自由な時間が多かったため非効率的な授業だなと思っていましたが、やっていくうちに自分で考えることによってより鮮明に記憶に残ることに気づき、この教育法は特に言語を学ぶときに適していると感じました。千葉大学の授業で見たフィンランド教育のビデオとまさに同じ方法で授業が行われていたため、本当だったのかと驚きました。

宿題、出席、復讐を欠かさずにフィンランド語を頑張りたいと思います！

【introduction to intercultural communication】

このクラスでは、名前の通り異文化コミュニケーションの基礎知識を学びます。文化の違い、ステレオタイプ、偏見、アイデンティティなどのキーワードを中心として異文化交流の際に起こる現象について考えます。ユバスキュラ大学を選んだ理由としてこういった異文化交流に関する授業が多いということがあったので、この授業の内容は興味深く、とてもおもしろいです。人気の

授業なので1クラスに約70人の学生がおり、発言することが難しいです。しかし先生は積極的に学生の意見を聞こうとするのでよく国別に意見や体験談を聞いて実際に文化を比べます。3人の先生がローテーションで教える授業なのですが、そのうちの一人の先生がよくアジアの例として日本を出し、日本人をピンポイントで当ててくるのでその先生の授業では気が抜けません。70人の前で自分の意見を英語で述べるのはとても緊張します。自分の英語力を上げ、また自分の意見をしっかり持つ癖をつけなければいけないなと思いました。そしてこの授業は専門授業のため課題が多く出ます。週2日の授業で毎回の授業の後に授業の概要、それに対する自分の意見をまとめる2ページのportfolioを提出しなければなりません。とても大変ですがそのおかげでライティングの力がつきそうです。

2. 生活の状況

9月に入ってから太陽が沈むのが途端に早くなり、また気温も10度を切ってきました。天気は雨か曇りで決していいとは言えませんが、生活に慣れてきたため毎日楽しく登校しています。今月は学期の始まりということでいろいろなことがありましたが、対人関係の大きな要素であるルームメイトとフレンドシップファミリーを重点的に書きたいと思います。

【ルームメイト】

9月のはじめにようやくルームメイトがやってきました。一人が嫌いな私はどれだけ待ち望んでいたことか！私のルームメイトはウェールズ出身の女の子でした。きれい好きでとてもフレンドリーだったため安心し、とりあえず家のことについては悩まなくて済むと思ったのもつかの間、1週間でその女の子は祖国へ帰ってしまいました。ホームの大学で単位を取り終えたいからと言っていたのですが、本当の理由はよくわかりません。(笑) そんなこともあってまた一人暮らしになってしまいました。周りの友達に聞いても未だにルームメイトがいない人はおらず、家の中でとても寂しかったため寮のサポートセンターに行ったら新たなルームメイトが来ないか聞きに行きました。すると約1週間後早くも新たなルームメイトがやってきました。フィリピンからきた女の子です。2年間フィンランドに住んでいることもあり、英語だけでなくフィンランド語も色々教えてくれます。リビングにめっちゃめっちゃ髪の毛を落とすところを除いて良いルームメイトです。これからもトラブルなく仲良くやっていきたいと思います！

【フレンドシップ・ファミリー】

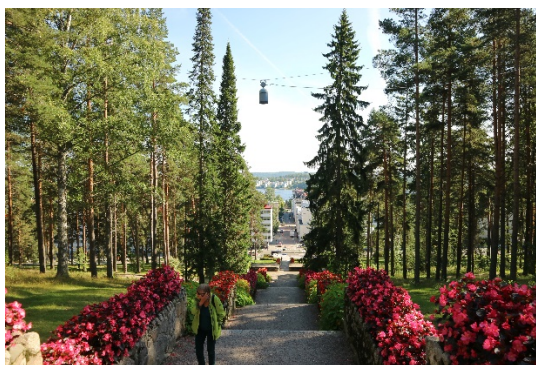
ユバスキュラ大学では留学生を対象としたFriendship Family Program というものが設けられています。このプログラムは希望者がフィンランドの一般の家族とペアになり、一緒に出掛けたり家族の家に行ったりし、フィンランドの文化をリアルに体験することを目的としています。私は申込書に「子供が大好きです！」と書いたので5歳の男の子と2歳の双子の女の子がいる家族になりました。お母さんお父さんはとてもやさしく、日本について興味をもっているいろいろなことを聞いてくれます。家に招いてご飯やケーキをごちそうしてくれたり、動物園に連れて行ってく

れたり、少し離れたおばあちゃんの家に招待してくれました。フレンドシップファミリーのおかげでフィンランドの文化を肌で感じることができています。子供たちはとてもかわいいですがフィンランド語でしかコミュニケーションが取れないためボディ・ランゲージをフル活用しています。(笑) 一生懸命私に話してくれますが、何を言っているかが理解できないためとても悔しいです。基本的にはjoo（フィンランド語でyesの意味）と相槌を打っています。そのためこの子供たちがフィンランド語を学ぶ最も大きなモチベーションになっています。

放課後には友達とカフェに行ったり、図書館で勉強したり、ホームパーティーをしたりと毎日とても充実しています。今のところはトラブルなく毎日がとても楽しいです！それもきっと一緒にいてくれる友達がいるからだなと感じています。これから先どんどん暗く、寒くなっていくので今のうちにメンタルを鍛えておきたいと思います！



私の住んでいる寮



晴れた日に友達と散歩しに行きました！



フィンランドのランチ
ケールのパンケーキにリンゴンベリーの
ジャムをかけたものがおいしかった！



世界一美しいガソリンスタンドの中

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2017/10/01 ～2017/10/31)

10月に入り、一気に気温が下がり日が短くなっていき、フィンランドらしさが出てきたように思えます。天気は相変わらず70パーセントは曇り、20パーセントは雨か雪、10パーセントが晴れといった具合なので、珍しく快晴の日にはSNS上が青空の写真であふれています。

さて、フィンランド生活も2か月が経ち、すっかりこちらの生活に慣れてきました。10月も相変わらず週5日で学校があり、毎日忙しくも楽しく生活しています。勉学の面では新たに始まった英語の授業と内容が難しくなってきたフィンランド語の授業について、生活の面では秋休みの旅行について書きたいと思います。

1. 勉学の状況

[Finnish 1]

前回の報告書にも書いた通り、私はフィンランド語の授業をとっておりこの授業が週に3回セメスターを通してみっちりあるため、一番ハードです。9月はあいさつや日常会話で使えるちょっとしたフレーズなどを丸暗記するようなものが中心でしたが、10月に入ってからは文法や動詞の活用を習い本格的になってきました。そのため今までフィンランド語の表記はちんぷんかんぷんだったのが、単語はわからないにせよどれが動詞でどこが文章の切れ目なのかというのが何となくわかるようになりました。フィンランド人が会話しているのを聞いて自分の知ってる単語や授業で習った文法が聞こえとうれしくなります。今までほとんど暗号のように聞こえていた言語が少しずつメッセージとして理解できるようになっていくのでやはり言語を学ぶことはとてもおもしろいなと思いました。ですが一方で、フィンランド語と英語の混同という問題も起きています。フィンランド語でのbe動詞が"on"なのですが、英語の論文を読んでいる時に"…research on intercultural communication…"といったような文章が出てくると時々頭の中で"research is intercultural communication"と変換されてしまい、混乱します。また、千葉大学にいたときに一年間ドイツ語の勉強をしていたのですが、とうとうドイツ語の数字が思い出せなくなっていました。数を数えるときに1, 2, 3の次からフィンランド語に切り替わってしまいます。自分の頭の中では、母語である日本語、第一外国語の英語、少し勉強した新言語のドイツ語、と三段階に区切られていた言語がフィンランド語の介入によってごちゃ混ぜになっているように感じます。今、頭の中がオリンピック状態なのでこれからしっかり整理していきたいです。

[Academic English Communication 2]

10月から新たな英語のクラスが始まりました。留学生を対象とした英語のアカデミックなスキ

ルを上げることを目標にしたコースです。クラスは約 15 人の生徒で構成されていて、チェコ、ドイツ、ロシア、イタリア、中国、スロバキア、フランスなど様々な国の人がいました。授業は 1 か月で終わるといって短期集中型のコースだったので、水曜日と金曜日に 8:00-12:00、木曜日に 10:00-12:00 というハードな時間に加え、課題がたくさん出ました。授業では、先生の講義を聞いたり問題を解くといったことよりはパソコンで論文の探し方を学んだり、自分に合う辞書を探したり、みんなのプレゼンを聞いてディスカッションをするといった実践的なものだったので長時間の授業もあまり苦ではありませんでした。その中でも印象に残っているのがパネルディスカッションです。4 人グループを作り一つのテーマに対して話の進行役と 3 人の異なるポジションに位置する人を決め、それぞれが自分の役を演じてディスカッションをするというのですが、日本でやったことなかったアクティビティだったのでとても新鮮でした。私のグループは、同性婚は認められるべきかというテーマでディスカッションしました。キリスト教徒、ロシアの政治家、同性愛者という役割を決め、それぞれ自分は賛成か反対か、なぜそう思うのか、といったことを主張し合います。ちなみに私は同性愛者役を演じました。同性愛に関する知識が全くなかったため一から調べるのは大変でしたが、よい勉強になりました。パネルディスカッションの難しいところは自分の本当の意見に関係なく、その役になりきって主張をしなければならないところです。ディスカッションが終わった後はクラスみんなで自分の国はどうかということをお話合います。世界の国々の政治事情や個人的ないろいろな意見をリアルに聞くことができ、インターナショナルなクラスならではの授業形態で、学んだことは大きかったように思えます。

2. 生活の状況

10/14 から 19 まで秋休みだったのでバルト三国に旅行に行ってきました。ちなみにバルト三国というのはエストニア、ラトビア、リトアニアです。ヘルシンキからエストニアの首都、タリンまではフェリーでわずか二時間で着きます。フェリー乗り場などがある郊外はさほどフィンランドと変わりませんが、旧市街に入ると一転。おとぎ話の国に迷い込んだのかというくらいにそれはそれはかわいらしい街並みでした。ピンク、水色、黄色といったカラフルでこじんまりとした家、趣のある石畳の道路、ハンドメイドの雑貨屋さん、おしゃれなカフェという女子大生大好き要素がふんだんに盛り込まれている町に興奮しっぱなしでした。旧市街のシンボル聖オラフ協会の展望台からはタリンの街並みを一望できます。筋肉痛になりかけながら石で作られた急な階段をひたすら上った後に見る景色は最高でした。この協会は 13 世紀に建設されたそうですが、クレーン車がない時代に昔の人はどうやってこんなに高い建物と作ったのか気になります。



聖オラフ協会の展望台からの景色



エストニアでの夜ご飯！暗くて何食べてるかよくわからなかった。

さて、タリンを楽しんだ後はバスで 4 時間かけてラトビアの首都リガへ！リガの街並みもとても素敵で、歩いているだけで楽しめます。京都のように道がきちり交差してはなく、広場から多方面に道が伸びていて、またその先もくねくねして枝分かれしてという具合で迷子になります。私たちはホテルで手に入れたマップに載っている有名な建物を片っ端から見っていくというザ・観光客な楽しみ方をしました。私が一番楽しみにしていたブラックヘッドハウスがまさかの工事中でとてもショックだったことを覚えています。



工事中のブラックヘッドハウス。ダミーでした。

最後はリトアニアの首都ビリニユスへ！バスを降りた瞬間、どんよりした空気、暗い表情の市民、道を聞いても教えてくれない冷たさに愕然としました。旅行客が珍しいのか、みんな私たちのことをじろじろ見てきます。タクシーの運転手はここぞとばかりに声をかけてきます。今まで観光地にしか行っていなかったので英語が通じることが当たり前だと思っていましたが、英語はあくまで第一外国語だということを思い起こされました。と、第一印象は最悪だったリトアニアですが、最終的には一番気に入った国です。街が大きくて、中心部に行くと東京のようにおしゃれな若者でにぎわっていますが、少し外側に行くと人が少なく、ゆったりとした時間が流れています。隠れ家的な雑貨屋さんやカフェに行くと観光客ということもあってかとてもやさしく話しかけてくれます。観光客が少ない分、作ってないありのままの現地の人の生活を感じられるところがビリニユスの良さかなと思います。



落ち着いた雰囲気の街並みのビリニウス。

そこから一週間ぶりにユバスキュラに戻ると、気温が 0 度を切っていました。リトアニアでは 15 度くらいだったのが北上するにつれて気温がどんどん下がっていくので地球ってすごい。小学生の理科の時間で習ったことを実際に体験できました。



一限登校の様子（朝 8 時 15 分）

初めてのマイナスの温度、日の短さに戸惑いながらもめったにない経験を楽しんでいます。私の友達によると11月が一番つらいそうですが、頑張って乗り切りたいと思います！

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2017/11/01～2017/11/30)

11月に入り、雪が降っては溶け、降っては溶けという天気が続いています。初めのころは雪が積もっているのがうれしくてはしゃいでいましたが、今では雪合戦もしなくなりました。日もどんどん短くなっていき、最近では9時頃に明るくなり出し15時過ぎには暗くなります。朝早く起きるのはつらいですが、思ったより平気です。むしろどこまで短くなっていくのか楽しみです。さて、今月は、勉学では新たに始まった2つの授業、生活ではポーランド旅行について書きたいと思います。

1. 勉学の状況

<Communicating in a culturally diverse workplace>

この授業は私の専門である intercultural communication コースが開講しているものです。授業名に惹かれ取ってみましたが大人数の講義型授業だったのでディスカッションはあまりありませんでした。ですが授業内容は面白く、インターナショナルな職場で、国籍、宗教、ジェンダー、言語などの違いがどのように働くか、またそういった違いがどのような対立や軋轢を生みだすかを学びました。海外で働く人が増えている現在でも、移民に対して差別があったり国同士の対立は避けられないと知り、自分の経験上からも日本にも当てはまるものだと感じました。私も口では移民を助けるべきだと言っている、いざ自分の国に来て職も社会保障もすべて平等にするかと問われたら悩んでしまうところから、グローバルな職場を作ることは大変難しいことだと思いました。このクラスは毎授業の前に15ページほどの論文を読み、授業の中でその論文のトピックについて話し合うというのが毎回の流れです。最後にはグループワークで20枚ほどの論文を書かなければいけないのでなかなかハードです。ちなみにまだ全然進んでいないので12月が恐いです。

<Education in Finland>

フィンランドは教育が有名ということで、専門ではありませんが一つだけ教育の授業も受講しました。千葉大学で教職の授業を取っていたのですが、そこで何回か世界一の教育としてフィンランドが例に挙げられることがあり、もともと興味がありました。フィンランド教育は第一に平等を掲げており、すべてのシステムはこのポリシーにつながります。例えば、フィンランドでは小学校から大学まで授業料はタダです。さらに義務教育である小学校と中学校では給食や文房具など学校にかかわるすべてのものが無料で支給され、なんと修学旅行も無料です。学校だけでなく電車や旅行会社、カフェやレストランなど町のあらゆるところで学割があります。また、学生には国から月3万円ほどの補助が出るためフィンランドの学生は普段アルバイトをしていません。

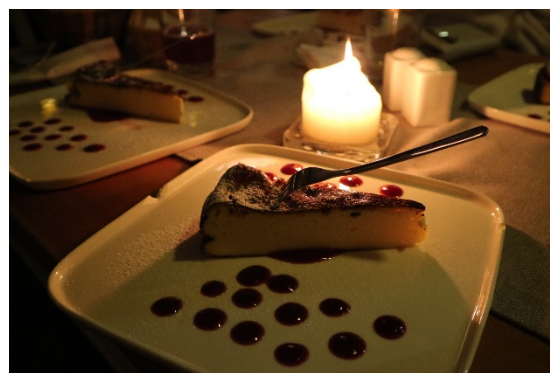
このようにしてすべての学生が学校へ通い、勉強に専念できる環境を整えているのです。教師も各クラスのカリキュラムを自分で組むシステムとなっており、学校内でのヒエラルキーといったものがないので職場環境はホワイトです。授業ではグループワークを推奨し、テストなどの競わせるものが少ないため生徒もストレスフリーです。実際に私もフィンランドで学生をやって、このシステムを実感しています。いろいろなところで学割がありますし、教師と生徒一人一人のコネクションが強く、生徒の状況を見て次の授業の構成を考えているようでした。まぎれもなく世界一の教育だと思います。

2. 生活の状況

11月の半ばにポーランドへ行ってきました。行く前のイメージでは東ヨーロッパの国ということであまり洗練されていない地味な国といった印象でしたが、実際行ってみるととても素敵な国で気に入りました。まず、物価が安い！ズロチという独自の通貨があり、ユーロが使えないのは面倒でしたが、夜に外食しても1000円ほどにおさまります。



ポーランド料理！



斬新なフォークの置き方

私は今回首都であるワルシャワとポーランドの京都と言われているクラクフに行きました。ワルシャワはザ都会という風で、ブランド店が並ぶモダンな雰囲気のある街並みにたくさんの人、車で夜中までにぎわっています。11月11日がポーランドの独立記念日ということでクラシックコンサートが開かれていたので見に行きました。映画で見るような立派なホールにプロの管弦楽団、生で聞くオーケストラは迫力があり感動しました。



クラクフは石畳にかわいい家々が連なっているような中世の街並み。広場でマーケットがやっていたり中心にカトリック教会があったりと、歴史を感じる都市でした。独立記念日当日は町中に旗が掲げられ、広場はポーランド国民でにぎわっていました。そんな混雑している中、お土産屋にいた友達はスリに遭い見事に財布を取られました。今まで自分の身近に起こったことがなかったので衝撃です。ちなみにその日はその子のバースデー当日でした。



ポーランド旅行の目玉は最後に行ったアウシュビッツです。ドイツ文化専攻でナチスの負の歴史について学んできましたが、やはり現地に行くと学べるものは大きいです。有名な“ARBEIT MACHT FREIT”の門や拷問所、不衛生なトイレやユダヤ人を連れてきた列車・線路がそのまま残っており、遠い昔の出来事ではないのだと思知らされます。連れてこられたユダヤ人から奪い

取った荷物、靴、服、食器、さらには髪の毛までが今でも大量に残っており山積みになっていました。お金になるものはすべて没収され、売られていたそうです。実際の遺留品を見ると、そのリアリティーにショックを受けます。壁に飾られている被害者の写真の表情からも憎悪が伝わってきます。また、収容所でのシステムは良く練られていると思いました。例えば、皆平等に扱うのではなく、よく働いたものには食料の配膳担当をさせたり、広い部屋を割り振るなどの報酬を与えていたそうです。それによって内部で競わせ争いを起こし、反乱を防いでいました。加害者側では役割を細かく分けることによって責任を分散させていたと聞き、ずる賢いと思いました。この悲劇が実際に起こっていたと考えると本当に恐ろしいです。百聞は一見に如かずという通り、今回この場所を訪れて今までぼんやりと理解していたことが鮮明になり、どのようなからくりで動いていたかがつながりました。負の歴史だからといって目を背けるのではなく、知っておくことは大切だと思います。



12月に近づくにつれ町や大学がクリスマスモードになってきました。イルミネーションやクリスマスツリーなどとてもきれいなのでぜひ来月の月間報告書に乗せたいと思います！

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2017/12/01 ～2017/12/31)

12月に入り、autumn semesterも終わりに近づいてきました。街では中心に大きなクリスマスツリーが立ち、クリスマスマーケットが開かれ、キラキラのイルミネーションであふれていてクリスマスムード満天です。今回は、勉学の状況では各授業の最終課題やテストについて、生活の状況ではヨーロッパのクリスマスを中心に書きたいと思います。

1. 勉学の状況

セメスターの終わりということで12月の初めはテスト勉強や課題に追われました。まず、Education in Finland という授業では毎回の授業のまとめと自分の考えを合わせて10ページと、グループワークでパワーポイントを作る課題を出されました。そして Communicating in a multicultural workplace という授業では4人グループで20ページのエッセイを書く課題を課されました。私は論文を書くことに慣れていない上にアカデミックな英語で書かなければならないのでこれらの課題はとても大変でした。特に先行研究を探すのに時間がかかったように思います。なかなか自分の思うような研究がヒットしなかったり、閲覧不可になっていたり、論文を読むのに時間がかかったり、の繰り返しでイライラしながら図書館にこもっていたのを覚えています。ですがこのおかげでリーディング、ライティング、論文の書き方など様々なスキルが身についた上に終わった後の達成感はとても大きいので今となってはやってよかったと思っています。

また、最大の関門である Finnish 1 の試験も12月にありました。次のセメスターで Finnish 2 を取るにはここで5段階評価のうち3以上を取らなければ進めません。試験はリーディング、ライティング、リスニング、スピーキングの4つの部門に分かれておりそれぞれ違う日に行われます。スピーキングのテストでは、生徒同士がペアを作り2人で話している様子を先生が見て評価するといったものです。私はペアの子と何回も練習していたので良い評価をもらえました。しかしほかの部門は難しく手こずりました。特にリーディングでは見たことのない単語がたくさん出たのでほぼ想像で解答欄を埋めた記憶があります。もしかしら当たってるかもなんて思っていました。評価は最低の1だったのでさすがにショックでした。ですが、各部門の平均で出される最終評価は3だったので何とか次のセメスターで Finnish 2 を取れることになりました。せっかくフィンランドに来たからには会話をできる程度にはなって帰りたいので来期も頑張りたいと思います！

2. 生活の状況

12月はクリスマスという最大イベントがありますが、12/6はフィンランドの独立記念日だということも忘れてはいけません。特に今年は100周年ということで例年以上に盛り上がり、マリ

メッコやイーッタラといったフィンランドブランドから suomi 100（独立 100 周年を表すフィンランド語）グッズがたくさん出ています。私はせっかくのチャンスなのでヘルシンキに行って一緒に盛り上がってきました。夕方からヘルシンキ大聖堂近くで待っていると長い行進が始まり、スピーチがあり、人でぎゅうぎゅうになりました。夜には花火が上がリ、特別な一日を体験することができました。



ユバスキュラでは友達の家でクリスマスパーティーをしました。ジンジャーブレッドを焼いてデコレーションをし、グロギという飲み物で乾杯し、おしゃべりをしたりクリスマスソングを歌ったりとフィンランド式クリスマスを楽しみました。



パックマンやハンドスピナーなど色々なジンジャーブレッドを作りました！

そして授業が終わり待ち望んでいた冬休みがやってきました！私は 12/14-23 の 9 日間でオーストリア、チェコ、ドイツのクリスマス旅をしてきました。隣国にもかかわらず街の雰囲気は全然違って、すべてが新鮮でした。

オーストリアでは都のウィーンを観光しました。美術館や国立図書館、本場の音楽を聴きにコンサートホールに行きましたが、どこも派手で装飾に手が込んでいてとても美しいです。銀閣寺より金閣寺の方が好きな方はきっとウィーンを気に入るだろうと思います。特にシェーンブルン宮殿は豪華絢爛です。見た目ももちろん美しいですが、中にはいくつもの部屋があり、すべての部屋は目がチカチカするほど美しいカーテンや家具、絵画で飾られておりハプスブルク家がいかに優雅な生活をしていたかがうかがえます。今から 300 年前にこれだけの設備を維持するにはどれだけ莫大なお金を要したか想像できません。税金を吸い取られている農民がこの生活を知ったらそれは怒るだろうと思いました。



黄金のホール。のだめにも出て来た有名なところで信じられないくらい綺麗だった。



プリンセスも色々大変なんだなと思いました。

チェコではプラハの街を観光しました。独自の通貨コロナがあるからか物価が安く、毎晩外食でおなか一杯になるまで食べました。首都にもかかわらず中世の雰囲気がたくさん残っていてとても歴史的な町でした。特にプラハ城は映画のセットの中にいるのかと思うくらい美しく、塔から見える景色も格別です。



チェコの伝統料理である gouladh と dumpling



オレンジ色の屋根がかわいい♡

そしてドイツではドレスデンとベルリンに行きました。ドイツの三大クリスマスマーケットであるドレスデンの *dresdner striezelmarkt* は中に観覧車やメリーゴーランド、大きなクリスマスツリーに巨大な木のオブジェなどにかくデコレーションが凝っていてとてつもなくかわいいです。夜になるとライトアップされてまた違う魅力がありました。この旅で10個以上のクリスマスマーケットに行きましたがドレスデンのクリスマスマーケットがダントツで美しかったです。ベルリンではブランデンブルク門、博物館島、国会議事堂、ベルリンの壁といった定番を巡り、都会の街を楽しみました。私は千葉大学の学科でドイツ専攻だったのでドイツに行くことが夢でした。特にクリスマスの文化が大好きなので、実際にクリスマスマーケットに行って伝統的な料理を食べ、ネイティブのドイツ語を聞くことができとても幸せでした。



ドレスデンのクリスマスマーケット！



クリスマスマーケットの定番、グリューワインとソーセージ！

12月はイベント盛りだくさんの月であり、半年で帰ってしまう友達とバイバイする別れの月でもありました。8月の半ばにフィンランドに来て4か月が過ぎ、たくさんの出会いがありました。違う国から来た友達も、日本から来た友達も宝物です。家でパーティーをしたり、お出かけしたり、旅行したり、毎日が充実していたのは友達のおかげだと思っています。ほとんどの人が簡単に会えない距離に住んでいますが、手紙やSNSでこの先も連絡を取り続けたいと思います。2017年はフィンランドに住んでたくさんのことを学び、経験し、今までで一番充実した楽しい年でした！2018年も色々なことにチャレンジして楽しみたいと思います！

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/01/01 ～2018/01/31)

Hyvää uutta vuotta kaikille! これはフィンランド語で‘皆さん、あけましておめでとうございます！’という意味です。いろいろなことを経験した2017年が終わりと、新しい一年がスタートしました。2018年は、迷ったらやるという精神のもとで何事にも積極的に挑戦していきたいと思います！では、勉学の状況では新たに始まった授業について、生活の状況では年越しについて書きたいと思います。

1. 勉学の状況

Autumn セメスターで取った授業から大人数の講義型授業はつまらないと学び、今セメスターでは少人数クラスでディスカッションやグループワークが多めの授業を取ることにしました。

まずは Suomi 2。前セメスターで取っていたフィンランド語の授業のレベル 2 バージョンです。クラスメートも先生もガラッと変わりましたが週 3 で朝 8:15 から始まる日があるというのは同じです。先生はベテランの先生で、テンポよく授業を進めタイミングよくペアワークやグループワークをさせるのでわかりやすく楽しいです。授業中の説明は 70 パーセントがフィンランド語になり、理解できないときもたくさんありますがネイティブのフィンランド語を聞くことによりリスニング力が上がると信じています。私はほかの生徒より出来が悪いので授業についていくことにいっぱいいっぱいですし課題も毎授業でるので大変ですが、フィンランド語は大好きなので休まずに頑張りたいです！

そして Fundamentals in intercultural and multilingual communication という授業。これは名前に惹かれて取りました。20 人ほどの少人数授業で、クラスメートはフィンランド、イタリア、スペイン、中国、ロシア、カメルーン、アメリカ、台湾というインターナショナルなメンバーです。週に 2 回授業があり、水曜日は主に先生の講義、金曜日はグループワークという授業内容です。先生がパワフルで面白く、よく生徒にも質問を投げかけたりするので飽きません。クラスメートも優しく、一緒に話したりディスカッションをするのが楽しいです。まだ始まったばかりですが、やはりただ座ってるだけの授業より自分たちで考えて意見を交換するような実践的な授業の方が力になるうえに面白いと思いました。

今セメスターは 8:15 始まる授業が週 3 になり、起きるのもつらいし凍える寒さの中、学校に行くのは大変ですが、頑張っって皆勤賞めざしたいです。

2. 生活の状況

今年は海外で過ごす初めての年越しでした。フィンランドは正月よりもクリスマスに力が入るので伝統的な年越し、正月というのはないのですが、日本人の私にとって正月を何もしないで

過ごすことはあり得なかったのでヘルシンキのカウントダウンイベントに行ってきました。日本で花火というと、手持ち花火か花火大会のようなプロが打ち上げる壮大なものというイメージでしたが、フィンランドでは一般市民が小さめの打ち上げ花火を買うことができます。年越しは花火というのが普通らしく、街のいたるところで花火がパンパン上がっていました。メインの花火がよく見える場所に着くと、ステージが設置されDJが音楽をガンガンに鳴らしてその周りには大量の人。フィンランドにこんなに人がいたんだと思うくらい的人数がカウントダウンを待っていました。0時に打ちあがった花火はもちろん日本のものに比べれば小さかったですが感動しました。



無事ヘルシンキで花火を見た後は一緒にカウントダウンをしたフィンランド人の友達の家にお邪魔しました。ヘルシンキから電車で30分ほどのところにあるエスポーという町のお家で、外観も家の中もとてつもなくかわいい。家族みんなが優しく、とても親切にしてくれます。フィンランドは家族との時間をとても大切にする国です。会社はぴったりの時刻に終わるためフィンランドでの帰宅ラッシュは16時です。学校では先生にメールを送っても夜や休日は絶対に返信が来ません。休日は友達と遊びに行くというよりは家でゆっくり過ごす時間、文字通り‘休息の日’という感じです。そのため、どのフィンランド人も家族と仲が良く、性格がゆったりしてい

て心が広いように思えます。私はフィンランドのこういった部分が大好きです。



朝起きたらこんなにかわいい朝ごはんが待ってました。



家の真ん中に暖炉！



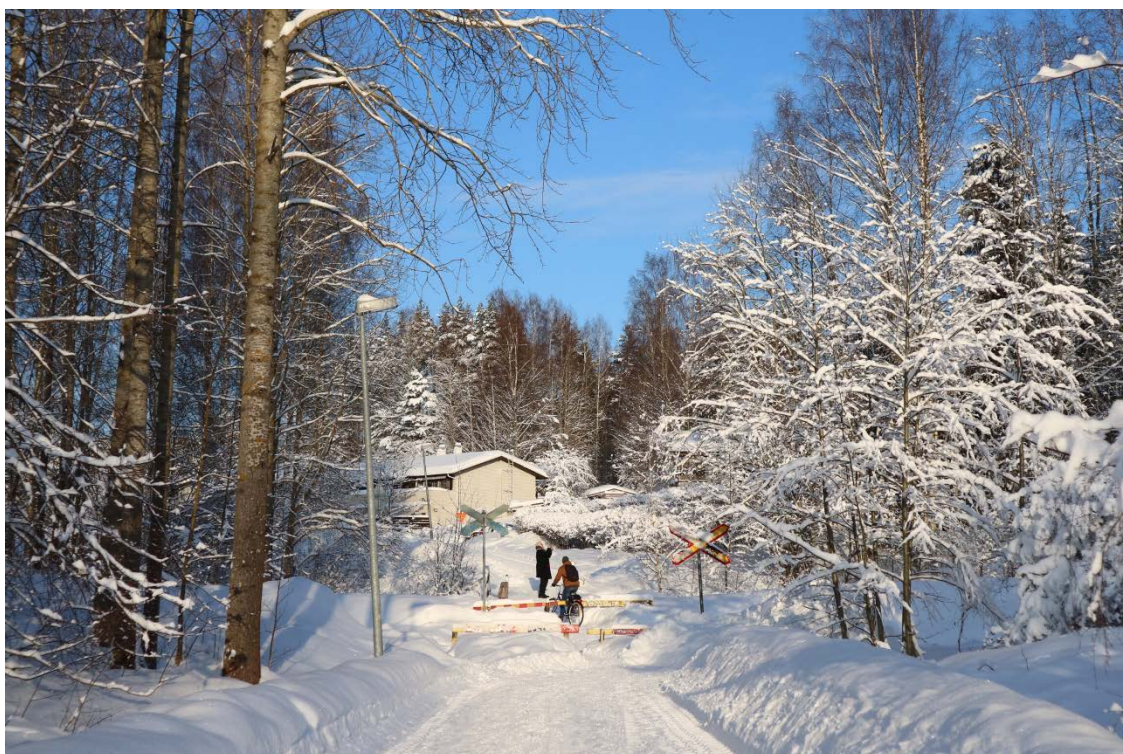
フィンランド料理のサーモンスープ！手料理おいしい～

と、こんな感じで友達とゆったりゆったりフィンランド式のお正月を堪能しました。お家に招待してくれた友達と家族に感謝です！

1月に入ると寒さが厳しくなりましたが、毎日この美しい雪景色を見れると思えばへっちゃらです。寒さに負けず、2月も楽しく過ごしたいと思います！



天然のスケートリンク



海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/2/1 ～2018/2/28)

一年で最も寒い季節がやってきました。毎日マイナスの気温はもう当たり前で、寒い日にはマイナス 20 度まで下がります。毎日冷凍庫の中を歩いている気持ちですが、日も長くなり、晴れの日が多くなったので、思っていたより平気です。晴れた日には雪景色が信じられないくらい綺麗なので、むしろフィンランドの 2 月は大好きです。今回は、勉学では 3 つのコースについて、生活ではモロッコ旅行について書きたいと思います。

1. 勉学の状況

<Fundamentals in Intercultural Multilingual Communication>

先月にも書いた授業です。この授業では大きく分けて二つの課題があります。個人的な課題とグループでの課題です。まず、個人的な課題として毎週の授業の後に learning log というものを書きます。授業でディスカッションしたこと、指定された論文の内容、自分の考えや体験談の 3 つを盛り込んで 1 ページにまとめなければなりません。この課題をこなすためには出席、リーディング、ライティング、とすべてのスキルが必要とされるのでなかなか大変です。グループでの課題は、いくつかタスクがありそれをグループでこなしていくというものです。タスクはメンバーの共通性・相違性を見つける、グループオリジナルの写真を撮る、といった簡単なもので、最終的には自分たちについてプレゼンすることがゴールです。この課題の目的は、国際的なグループで共に過ごすことによる異文化間コミュニケーションの理解だと思われます。私のグループには、フィンランド人、アメリカ人、中国人の子がいます。週一程度授業外で集まり、一緒にランチを食べながらタスクについて考えたり、この間はそり滑りやバーベキューをして遊びました。異文化間コミュニケーションを楽しく、実践的に学べます。

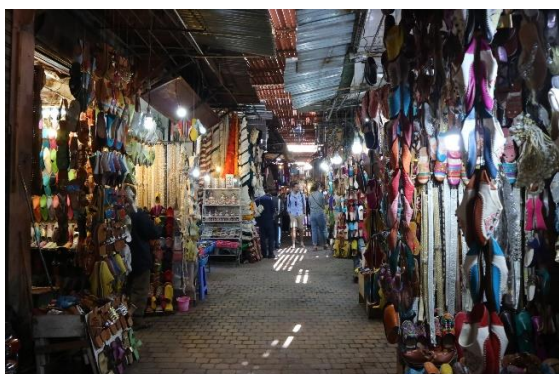
<Big and Small Talk about Finland>

新しく始まった英語の授業です。前セメスターで取っていた、ライティングやリーディングなどのアカデミックな英語を学ぶ授業ではなく、スピーキングやディスカッション、プレゼンテーションを行う応用の授業です。こちらもコースの最後にはグループに分かれてフィンランドの文化についてビデオを作り、プレゼンテーションをします。私のグループではフィンランドと日本と中国の小学校教育の違いについてビデオを作ることになりました。それぞれの国の小学生たちがどのような一日を過ごしているかを公的機関やインタビューから情報を集め、比較していきます。地元の小学校や学生にアポイントメントをとってインタビューをし、編集し、翻訳なども入れてビデオを作ることはとても難しいですが、自分たちで作品を作り上げていくのは面白いです。プレゼンまでに間に合うか不安ですが、頑張ります。

2. 生活の状況

フィンランドには2月の終わりから3月の頭にかけてスキー休みというものがあります。この時期のヨーロッパはどこも寒そうなので前から行ってみたかったモロッコに行くことにしました。

初めてのアフリカ大陸ということでワクワクドキドキしながらモロッコに着くとびっくり。今まで旅行してきた国と全く違いました。迷路のような複雑な町にお土産屋や屋台、レストラン、八百屋、肉屋、ホテルなどが所狭しと並んでいます。子供が走り回っておじさんが地べたに寝そべっていて犬と猫が人間と共生していました。“カオス”という言葉がぴったりの街並みです。アジア人女2人で歩いているといろんな人が声をかけてきます。“ニーハオ！”“ジャパニーズ？”“コンニチワ”“シェイシェイ”“カワイイネ”“貧乏プライスダヨ”など、中国語と日本語ごちゃ混ぜで、使える単語を投げかけてきます。小学生のお子様にもからかわれます。最初は馬鹿にされているみたいで嫌でしたが、あまりにもみんなが声をかけてくるのでおもしろかったです。なんだかんだ困っていたら助けてくれるし、みんな笑顔で話してくれて、とてもフレンドリーでいい人ばかりです。そして物価が安くて雑貨がかわいい！食べ物がおいしい！私は洗練された小綺麗な場所も好きですが、このようなごちゃごちゃした冒険っぽい場所も探検しがいがあって大好きです。初日からすっかり異国情緒あふれるモロッコを楽しんでいました。



マラケシュの街並み



モロッコ風サンドイッチ。200円でおなか一杯、めっちゃおいしい！

つぎは青の街シャウエン。都市から離れた山の斜面にあるこの小さな町は本当に壁も床も真っ青でとても綺麗でした。観光客を集めるためとかではなく、昔から青いそうなので不思議です。夕日を山の上にある塔から見たかったので頑張って登りました。その日は晴れだったので夕日がきれいに街を包みこんで美しかったです。モロッコではリヤドと呼ばれる大邸宅を改造してホテルにした宿に泊まったのですが、シャウエンのリヤドも最高でし

た。特に晴れた日にテラスで食べるモロッコの朝ご飯は至福のひと時です。

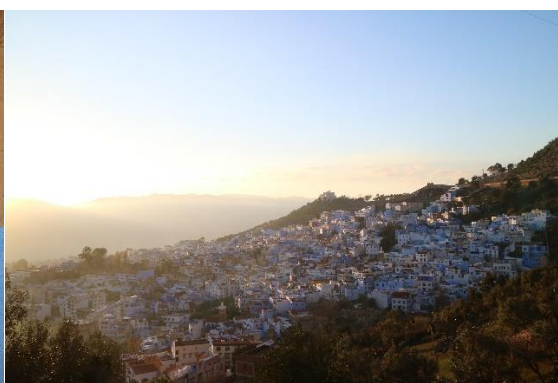


＊モロッコ朝食＊

- ・モロッコ独特のパン
- ・卵
- ・ジャム、バター、チーズ
- ・オリーブ
- ・フルーツ
- ・コーヒー
- ・生絞りオレンジジュース



青い青い青い



シャウエンの街 with 夕日

そしてメルズーガ、サハラ砂漠！今回のモロッコ旅行で一番楽しみにしていました。フェズからバスで12時間かけてようやく到着です。天気にも恵まれて雲一つない晴天、絶好の砂漠ツアー日和でした。現地のベルベル人が引くラクダに乗って砂漠の中心まで行き、砂漠の山に登って夕日を見ました。夕日が波打つ砂漠を照らす景色は信じられないほど綺麗で、一生忘れません。想像以上に砂漠は壮大で、圧巻で、美しかったです。夜はモロッコ料理であるタジン鍋を食べ、ベルベル人の音楽を聴いて一緒に踊りました。夜に星を見たときに月が明るすぎてあまり見えなかったのですが、月が消えた翌朝5:30、友達に起こされてボケボケしながら空を見てびっくり。一瞬で目が覚めました。言葉通り数えきれないほどたくさんの星が空一面を埋め尽くしていました。どれがオリオン座か分からないほどたくさんの星が輝いていて、違う世界に来たみたいです。今まで見たことのない満天の星空に本当に感動しました。朝日もきっちり見て、人生で一番感動した経験でした。

もう1つ、この砂漠ツアーで驚いたのがラクダ使いの少年たちです。私たちのラクダを引いて、郷土料理や音楽で楽しませてくれたのは10~20歳くらいの少年たちだったのですが、遊牧民の中で育っているため学校には通っていません。ですが、自分たちの母語であるア

ラビア語の他に英語やスペイン語が話せ、中には日本語で話しかけてくる子もいました。よく観察していると私たちが発した“すごい“や“かわいい“、“寒い“、“綺麗“といった簡単な単語を面白がってまねして繰り返しています。毎日訪れてくる様々な国からの観光客を見て、聞いて、彼らとコミュニケーションをとるためにどんどん言葉を吸収し、それを実際に使う。この繰り返しでコミュニケーションに必要な程度の言語力を身に付けているのだと思いました。私は大学に通い、言語を文法や法則にのっとして勉強して、やっとこの程度の英語力だというのに彼らは私より幼く授業も受けていないのにいろいろな国の人とコミュニケーションが取れている。そう思うと自分が恥ずかしくなりました。今まで言った国々で英語が通じたため心のどこかで英語ができれば安心と思い込んでいる自分がいました。しかし、彼らを見て、現地の言葉を話せるようになりたい、知識ではなく実践的な力を身につけたいと強く思いました。この砂漠での一日はただ楽しいだけでなく、大きなことを学ぶことができました。



インターネットからの拾い画じゃありません。ちゃんと私が撮りました。



モロッコへの旅は私に大きな影響を与えました。大きなものとして、固定概念の払拭。アフリカは危険というイメージを少なからず持っていましたが、実際は全然違いました。人々はやさしいし、食べ物はおいしいし、今までとは全く違う世界を見ることができる素晴らしいところです。今回の旅で出会った人たちからもアフリカや南アメリカなど私が今まで治安が悪いと思っていた国々を薦められました。話を聞いている限り、今まで見たことのない世界がそこにはあり、それを勝手な固定概念のために諦めてしまうことがもったいないと感じました。色々な世界を自分の目で見て感じて、いろんな人々や言語、文化に触れたいなと思いました。日本に帰ったら今回興味を持ったモロッコの文化・遊牧民の生活、そしてアラビア語を勉強したいと思います！

モロッコについて書きすぎて旅行記になってしまったので、ここでフィンランドの冬景色についても載せておきます。ユバスキュラでも今月は-20Cを下回る日がありました。寒いを通り越して痛いです。でも寒い日は大体晴れなので散歩がてら歩いて学校に行きます。スノーダストがキラキラしていて、木が真っ白になっていて、幻想的です。今のうちにこの雪景色を目に焼き付けておこうと思います。



海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/03/01 ～2018/03/31)

3月に入り、晴れの日が増え日照時間もどんどん長くなってきていますが、相変わらず雪が積もり気温もマイナスです。それでもフィンランド人はこれが春だというのでどうやら彼らの春の概念は日本人と違うようです。さて、今回は勉学の状況ではグループワークの大変さについて、生活の状況ではフィンランドの食文化について書きたいと思います。

1. 勉学の状況

先月の月間報告書でも述べましたが、Big and Small Talk about Finland と Fundamentals in intercultural and multilingual communication という授業は基本グループワークが中心です。どちらも最終課題がグループプレゼンテーションやグループエッセイなので、ランダムで決められたグループで連絡を取り合い、授業外に時間を合わせて話し合わなければなりません。このグループワークで自分の弱点を多く見つけたように思います。まず、英語力の低さです。こちらでの生活に慣れ、日常生活の中での英語に苦痛を感じることはなくなったので、自分では英語が上達したなと思っていました。ですが、グループワークを通して私はまだ自分の考えを明確に、分かりやすく順序立てて説明するというスキルに欠けていることを痛感しました。友達と話している分には多少曖昧でもお互い理解できますが、アカデミックな場面では何となくでは相手に通じません。提案したいことがあるのにそれを細かいニュアンスまでうまく表現できないということが多くありました。次に積極性のなさです。他のメンバーがアイデアを出している中であまり積極的になれなかったことが多くありました。頭の中では自分なりに考えますが、他のメンバーはグループワークに慣れていてアイデアもいいものばかりなのでつい同調して頼りがちだったように思えます。これは英語力とも関係していて、自分の英語力に自信がないとつい消極的になってしまう傾向があると自分で感じました。そしてプレゼンテーションのスキル不足です。グループでビデオを作ったのですが、これまでビデオなど作ったことがなかったのでまずどのアプリを使えばいいのか、どう構成すればいいのか、どうやって編集するのかという基本的なことも全く分からない状態からスタートしました。まずイメージがないあとなにも始まらないと思ったので、インターネットで動画編集について調べたり、ユーチューバーの人の動画を見て何が動画を面白くする要素なのかをひたすら研究しました。もともとこういったことは好きなので楽しかったですし、グループでいいものを作ることができましたが、時間はほかのグループの何倍もかかったように思えます。また、いざプレゼンテーションをやる時のちょっとした前置きやコメントもあまりうまくできなかつたのもっと経験を重ねて上達していく必要があると感じました。千葉大学ではただノートを取るだけの受け身な授業ばかりを受けてきたので、ここにきて自分の甘さに苦しめられています。もちろんグループワークは大変ですが、仲間たちと話し合っ

から自分たちの作品を作り上げていくのはとても楽しいですし、達成感があります。また、自分の弱さや失敗から学んだことを次に活かして前よりもいいものを作ろうと思うとやる気が出ます。これらのグループワークを通して新たな発見がありました。

2. 生活の状況

今回はフィンランドの食について紹介したいと思います。

多くのフィンランド人は朝ご飯にポリッジというものを食べます。オートミールのようなものに水やミルクを加えてレンジでチンすれば完成という時短の食べ物です。基本これだけでは味が無いので砂糖やシナモンを入れてベリーをトッピングしたり、ココアとバナナを入れてチョコバナナ風味にしたり、と各自がオリジナルのポリッジを楽しんでいます。私も友達の家で食べさせてもらいおいしく感じたので朝ごはん用に一箱買いましたが、なかなか減らない上にとても飽きます。そもそもあまりおいしくないということに気づきましたが、今頑張って消費しています。



ポリッジ

友達がおすすめしてくれた
砂糖+シナモン+ベリーの
組み合わせ

昼ご飯は私の場合は学食が多いです。ユバスキュラ大学には6つのカフェテリアがありますが、それぞれメニューやパンの種類が異なります。ビュッフェ形式で、飲み物、サラダ、主食、メイン、パンというような順番で一列に並びながらお皿に盛っていきます。学生は2.60€という安さで日替わりの学食が食べられます。私のお気に入りにはハウレンソウとフェタチーズのパイです。また、フィンランドの主食は基本いもです。ジャガイモをゆでたものやマッシュポテトやフレンチフライが日本での白米ポジションです。フィンランド料理はクリームソースやチーズを使ったこってりしたものが多くおいしいですが、日々日本食の薄味でおいしいという素晴らしさを感じています。



ミートボール



サーモンスープ

夜ご飯は人によってバラバラです。昼に学食でがつり食べたから夜はパンだけという人もいれば、男の学生で夜も学食で食べる人もいます。私の場合は家で日本食を作ります。フィンランドにいながらも一日一回は白米を食べていると思います。日本では夜ご飯が一番豪華で一汁三菜という人が多いですが、フィンランドではそのような概念はありません。好きな時間に好きなものを食べる、という傾向があるように思えます。

また、フィンランドではコーヒブレイクがあります。学校では14時の休み時間に多くの学生がコーヒーを買いに行き、どの職場にも午後のコーヒブレイクという休み時間があるそうです。また、友達やその家族の家に遊びに行くと必ずコーヒーと Pulla（菓子パンの総称）やケーキでもてなしてくれます。どんなに忙しくても安らぎの時間を毎日設けるのがフィンランドのゆったりとした文化のポイントなのかなと思います。



フィンランド人の家とはとにかくセンスがいい！



フィンランドのコーヒーのお供
シナモンロールとブルーベリーパイ

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/04/01 ～2018/04/30)

フィンランド留学も終わりに近づいてきました。4月は日本では新生活がスタートする節目の月ですが、フィンランドは特に新たなこともイベントもない微妙な月です。今回は勉学の面ではフィンランド語の授業(Suomi2)と新たに始まった Intergroup Communication という授業について、生活の面ではフィンランドと日本の違いについて書きたいと思います。

1. 勉学の状況

<Suomi 2>

ユバスキュラ大学の授業カリキュラムは千葉大学と違いとても不規則です。通 Semester である長い授業もあれば 5 日で終わる短期型の授業もあり、また、週の授業時間数もバラバラです。今期の私の授業の中で唯一 1 月からずっと週 3 であったフィンランド語のクラスも 4 月の下旬に終わりました。約 1 年間のフィンランド語の学習を終えてもペラペラになったわけではありませんが、確実に上達したと思います。留学前にフィンランド語の基礎もやってこなかったため、とても苦労しましたし、勉強してくればよかったと後悔しました。英語とも日本語ともルーツが全く異なるフィンランド語は、発音は日本語寄りで文字はアルファベット、しかし文法は独自のものであるという新たな種類の言語だったので知識がなくては何を言っているか予想することもできません。しかし私はこの他とは違った、フィンランドでしか話されていない不思議な言語が大好きなので授業は楽しかったです。フィンランドに来て、現地の言葉を学ぶことができ本当に良かったと思います。日本に帰ってすぐに忘れないように気を付けたいと思います。

<Intergroup Communication>

この授業は私の専門の Intercultural Communication の授業のひとつです。先生がパワフルで面白く、またグループワークがあったため受講することにしました。専門の授業ということで課題が多く出されます。まず、毎授業前に 20 ページほどの論文を読まなければ授業についていけません。そして個人の最終課題として 10 ページの論文を提出しなければなりません。そしてグループ課題は世界に存在する少数派のグループを 1 つ選んで彼らに対する周りの人たちの偏見についてビデオを作成します。私たちは多国籍な 4 人のグループなのですが、私以外、皆交換留学生ではなく大学院生のためこういったプロジェクトに慣れていました。優しく教えてくれたり説明をしてくれますが、皆がてきぱき意見を出したり他の論文やニュースの情報を共有している中で自分が足を引っ張っているように感じて落ち込んでしまいます。その中でも一番大変だったのは、演技です。私たちのトピックはヒジャブを被ったムスリム女性への偏見だったのですが、周りの人たちの典型的な反応を自分たちで演技して撮ろうということになりました。ほぼアドリブでという無茶ぶりの指示に何回も NG を出しました。すらすらと英語が出てこなかったり、演技が難しくメンバーには迷惑を掛けました。ただ座って授業を受けるだけじゃなく、こういっ

たグループワークの際にどんな要求にも臨機応変に対応できるようになりたいと思いました。

2. 生活の状況

フィンランドで生活して 9 か月、たくさんの新しいこと、日本との違いに触れてきました。今回は私が日常生活で感じるその違いについて紹介していきたいと思います。

まずは人々の生活について。フィンランドでは日本に比べてとてもゆったりと時間が流れてるような気がします。間に合わなくて走り回っている人もいませんし、信号のない横断歩道では必ず歩行者のために止まってくれます。多くのエレベーターには閉まるボタンがありません。これは、フィンランドにはゆとりを大切にする文化があるからだと思います。彼らはどんなに忙しくても休みの時間を設けます。会社は基本 16, 17 時退社で残業や土日出勤はありません。さらにクリスマスホリデーやイースター、夏至祭など様々なイベントの時も会社や学校は休みになり家族と共に過ごします。フィンランド人にとって休みの時間、家族と過ごす時間は最も大切なものであり、仕事は二の次ののだと思います。私は日本では学校の合間に遊びとバイトを埋め込んで毎日忙しい生活を送っていました。何もない時間＝暇という概念があったからです。今でこそこのゆったりした生活はストレスフリーでありとても健康的だと思いますが、初めは何もない空白の時間が暇で仕方ありませんでした。

次に自由な考え方です。フィンランド人はそれぞれ自分の好きなように生きており、周りの目や社会的ステレオタイプをあまり気にしないように思えます。例えば、日本ではほとんどの学生が高校を卒業したすぐ後に大学に進学し、そのまま 4 年、6 年で社会に出ます。しかしフィンランドでは高校を卒業した後に多くの人が gap year という空白の年をもうけて、世界を旅したり会社で働いたりするそうです。そして大学に入ったあとも 5 年、6 年、7 年と滞在する年数は皆バラバラです。途中でやりたいことが変わって専門を変える人や大学を変える人、会社を辞めてもう一度大学で勉強し直す人も少なくありません。教育制度が整ったフィンランドでは学費が無料、編入も比較的容易が故のことだなと思います。そして、フィンランドは小学校の頃から校則が緩く、基本的に髪、服、持ち物など自由です。大学では授業中に足を上げて受けている生徒やヨーグルトを食べている生徒がいても先生は一切注意しませんし、周りも気にする様子はありません。最後に、これは日本人と少し似ているかもしれませんが、シャイな性格です。フィンランド人はシャイだと言われますが本当にその通りです。というよりも、あまり感情を表に出しません。授業ではあまり発言しなからず、写真を撮る時もポーズはなく口も開きません。知らない人同士では分かりやすく距離が離れています。また、面白いときはクスリと笑うだけで本当に楽しんでいるのかとても不安になります。授業が終わったら“またね～”といった挨拶はなくスタスタ歩いて行ってしまいます。はじめは自分は嫌われているのかと心配になりましたが、今ではこれが普通なのだと理解しています。仲良くなるまで時間がかかりますが、一度信頼関係を気づけばとてもやさしくしてくれるフィンランド人が私は大好きです。



フィンランドの楽しみ方、湖の周りをサイクリング



ユバスキュラの街並み



フィンランドの大好きな文化、コーヒータイム♡



フィンランドの人気スポーツアイスホッケー！

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/05/01 ～2018/05/31)

時間が過ぎるのは早いもので、フィンランドでの生活もとうとう終わりです。すべての授業が終わり夏休みが始まるうれしさもありますが、やはりもうユバスキュラ大学に通うことはないという悲しさの方がはるかに大きいです。そして何よりフィンランドで出会った友達との別れが一番さみしいです。思えば今回の留学で十人十色の様々な人と出会い、仲良くなり、たくさんのやさしさに触れ、そこから学ぶことはとても大きいものでした。フィンランドでの留学生活が充実した楽しいものになった 1 番の理由としてこれらの人々との出会いがあったからだというのは間違いありません。

さて、ラストの月間報告書では総まとめとして留学全体のことを中心に書きたいと思います。

勉学の状況

<Intergroup Communication>

私の最後の授業もグループプレゼンテーションをもって終わりです。先月にも書いた通り、私のグループはムスリム女性に対するステレオタイプについてプレゼンしました。自分たちでビデオを撮り、先進国で流れているムスリムの人に対する偏見が見られるニュースを集め、それを編集した 5 分ほどのビデオを発表しました。私のグループメンバーは本当に優秀で、学校でしか使えないプロフェッショナルな編集ソフトを使いこなし、たくさんある情報をうまくつなぎ合わせてビデオを作っていきます。私も手伝いますが、技術がないためほとんど見ているだけになってしまい、申し訳なさや悔しさでいっぱいでした。彼女たちから学ぶことはたくさんあり、グループワークの進め方、ビデオの構成、資料の集め方、良いプレゼンテーションの仕方など watching learning で色々なことを吸収できたと思います。この授業で味わった自分の非力さ、悔しさをバネに次に活かしたいと思います。



ユバスキュラ大学
マイナスイオン出まくつ
てます。

2. 生活の状況

5月に入って気温がぐんと上がり、晴れの日がずっと続いています。5月のフィンランドでこの暖かさは異常らしく、最後の最後でフィンランドの夏を味わえたのはとてもラッキーだと思っています。気温も高すぎず、空気が乾燥しているため外にいるだけでとても気持ちが良いです。湖の近くに行って寝そべりながら自然を楽しみ、友達とおしゃべりをし、アイスやフルーツを食べるのが最近の楽しみです。



友達とシナモンロールを作って森にピクニックに行きました。

そして5月の中旬にフィンランド人の友達のサマーコテージに遊びに行かせてもらいました。フィンランドではほとんどの人が湖の近くにコテージを所有しており、夏の間そこで過ごしたり、何か祝い事があると親戚が集まってパーティーをするそうです。基本的に街から離れた自然の中に建てるので、未だに電気や水道が通っていない原始的なサマーコテージもたくさんあります。3日の滞在の中で、昼間はカヤックをしたり、ボートで湖に釣りに出かけたり、森にハイキングをしに行ったり、と、存分にフィンランドの自然を満喫しました。夜はサウナで汗を流したあとに湖へダイブというTHEフィンランドな体験をして、とても楽しかったです。招待してくれた友達とその家族には感謝でいっぱいです。



左がコテージ、右がサウナです。右下の階段を使ってサウナと湖を行き来します。



カヤック



森の中をハイキング

お父さんがグリルしてくれたランチを
テラスでいただきました

この約10か月間、初めてのことをたくさん経験し世界が広がりました。自分がマイノリティになる環境に飛び込むことで、今まで当たり前だったことがそうでなくなったり、自分の思うようにいかないことが多々ありましたが、そのおかげでいかに自分中心に物事を考えていたか気づかされました。広いコミュニティに出たことで視野が広がり、心が寛容になった気がします。文化も常識も言語も共有しない人々と交じり合うことで驚くほど違うこともあれば、少し似ている部分を発見することもあり、文化の違いを見つけることがすごく面白かったです。世界中の国にさらに興味を持ちました。その中でもやはりフィンランドのことを一番よく知ることができたと思います。教師と生徒の距離が近いアットホームな教育環境や、暗くて寒い冬の過ごし方などの生活の面ですが、フィンランド人について色々な面を見ることができました。一般的にフィンランド人はシャイで無表情と言われがちです。これは本当のことですが、彼らの心の奥底はとてもやさしいです。スーパーのレジやバスを降りるときに“Kiitos”（フィンランド語でありがとうの意味）という礼儀正しい部分があり、偏見が少なく外国人にも寛容で、困った人がいるとすぐに助けてくれ、初対面は静かでも一回仲良くなればすごく親切にしてくれる情が厚い国民性で、というように挙げだすときりがありませんが、私はフィンランド人の見返りのないやさしさに何度も触れ、感動しました。とてもあたたかいフィンランド人が私は大好きです。それと同時に自分も

彼らを見習おうと思いました。

10 か月の留学生活は楽しくて、刺激的で、私にとって夢のようなものでした。フィンランドに留学に来て本当に良かったと心から思います。これからも何度かフィンランドに旅行に行って友達と会ったり、仕事で関われたらいいなと思っています。

Kiitos paljon kaikille! Moimoi:D (訳：Thank you very much everyone! Bye:D)

